

今、海外進出をするなら「インド」が熱い？
日本企業にとっての戦略的成長市場とその背景

1. はじめに

近年、世界経済の停滞や中国市場の成熟化の中で、日本企業は新たな成長機会を求めています。こうした中、インド市場が最も注目されている潜在力豊かな地域の一つとなっています。人口約14億人の巨大消費市場、高い経済成長率、政府主導の産業振興策などが相まって、今こそインドへの進出が日本企業にとって魅力的な選択肢となっています。

2. ジェトロ調査に見るインドの存在感

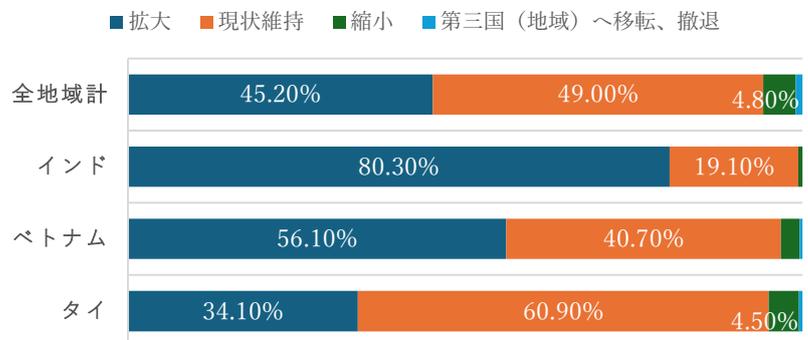
2024年ジェトロの「海外進出日系企業実態調査（全世界編）」では、83か国・地域に進出する日系企業18,186社を対象にアンケートを実施し、7,410社の回答を得られました。有効回答率は約40.7%です。

- ① 営業利益が「黒字」と見込む企業：65.9%（前年比+2.5pt）で改善傾向。特にインドやブラジル、メキシコなどの新興国で好調。
- ② 今後1～2年で事業を拡大すると回答した企業：全世界では45.2%。インドは最も高く、80.3%。
- ③ 事業シェアが増加したと回答した企業割合：全世界では39.3%。インドでは60.1%と高水準。一方、中国やタイでは割合が低い傾向にある。

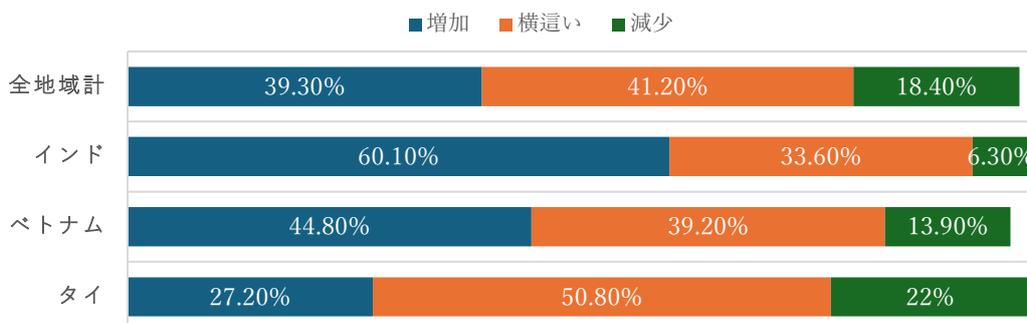
①海外進出日系企業の2024年の営業利益見込み



②今後1～2年の事業展開の方向性



③主要製品・サービスの市場シェア



本情報は、弊行が信頼できると思われる情報ソースから入手した情報、データをもとに作成しておりますが、その内容の正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。
 お取引などの最終判断は、お客さまご自身で行なっていただきますようお願い申し上げます。

3. インド進出を後押しする背景

【①圧倒的な人口規模と人口構成の若さ】

インドの人口は2024年時点で約14億人に達しており、既に中国を上回って世界最多とされています。特筆すべきはその年齢構成で、25歳以下の若年層が全体の約半数を占めており、今後も長期的に消費・労働力の供給源として市場の活力を支え続けると見込まれています。

【②インド政府による産業振興政策の積極性】

「Make in India」政策では、製造業を中心とした投資誘致や国内生産の推進が図られており、自動車、電子機器、医薬品など多くの分野で日系企業の技術や製品が歓迎されています。加えて、「Digital India」「Startup India」など、IT産業や新規ビジネス創出に関する政策も活発に実行されており、現地企業との協業や投資機会の創出に寄与しています。

【③インフラ整備の加速】

道路、鉄道、港湾、都市開発など、国家主導の大型プロジェクトが進行しており、そこに日本の技術やノウハウが活用される場面も増加しています。具体的には、日本の新幹線技術を導入し、移動時間を2~3時間短縮できるムンバイ~アーメダバード間高速鉄道(500km)が完成予定です。このような日印間の経済連携強化も進んでおり、ビジネスにおける信頼性や予見可能性が向上している点も、日本企業にとって安心材料の一つです。



4. 日本企業の進出動向と成功事例

インドを中心に進出している日系企業は、自動車・製造業を中心にIT・インフラ・小売まで多彩です。その中でも以下の事例は高い注目を浴びています。

- ・スズキ (Maruti Suzuki) : 現地生産、販売網を確立し、圧倒的市場シェアを確保。
- ・NEC/日立など : スマートシティや鉄道インフラといった大型プロジェクトで日本の技術を展開。
- ・IT・BPO企業 : インドの高度IT人材を活用し、グローバル展開の開発拠点として現地法人を設立。

5. まとめ

ジェトロの調査データから見ても、インドは営業利益見通し・事業拡大意欲・市場シェア拡大のいずれにおいても他国をリードしています。その点から日本企業は戦略的に現地ニーズに対応しつつ、信頼できる支援機関と連携することで成功の可能性を高められます。

以上

本情報は、弊行が信頼できるとされる情報ソースから入手した情報、データをもとに作成しておりますが、その内容の正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。
お取引などの最終判断は、お客さまご自身で行なっていただきますようお願い申し上げます。